漁港は
魚の保育園
http：//www.gyokou.or.jp/

漁港漁場月報

平成27年7月15日　発行
毎月　1回15日発行
編集兼発行人　公益社団法人　全国漁港漁場協会
橋本　牧
東京都港区赤坂1－9－13三会堂ビル8階
電話　東京（5114）9981
定価　1部　70円
（会員の購読料は会費の中に含む）

第18回 日韓漁港漁場漁村技術交流会議を韓国で開催

「漁港漁場漁村の6次産業化」がテーマ

和やかに写真に納まる両国の参加者

第18回日韓漁港漁場漁村技術交流会議が、6月25日（木）、韓国ソウル市コリアナホテルにおいて、特殊法人韓國漁村漁港協會の主催により「漁港漁場漁村の6次産業化方案」をテーマとして開催され、日韓の漁港漁場漁村関係者など80名あまりが参加した。

会議には、日本から橋本牧公益社団法人全国漁港漁場協会会長を団長として、水産庁、在大韓民国日本大使館、漁港漁場関係団体、民間企業から12名が参加した。

韓国側は柳青魯（リュチェンロ）特殊法人韓國漁村漁港協會理事長をはじめ、海洋水産部、関係団体、民間企業、新聞社など70名あまりが出席した。

この交流会議は、平成9年に第1回を東京で開催して以来、毎年日韓両国で相互に開催し、漁港漁場漁村のインフラ整備、維持管理及び関連技術等に関する諸問題について発表し、意見交換している。

会議のテーマは、その時々の両国の漁港漁場漁村を取り巻く状況を反映して設定されている。

今回は、両国の漁港漁場漁村の現状と問題点を踏まえ、漁港及び漁場の有効利用と漁村の振興などについて、両国の事例紹介を通じて今後の発展につなげるため、「漁港漁場漁村の6次産業化」がテーマとなった。

会議は、主催者を代表して、柳青魯理事長が出席者への謝辞と歓迎の挨拶を行い、日本側を代表して、橋本牧会長が「第18回日韓漁港漁場漁村技術交流会議をここソウルで開催していただき、大変ありがとうございます。本会議を準備し、私ども一行を暖かく迎えて下さいました韓国漁村漁港協会の柳青魯理事長様はじめ、関係者の皆様に心より感謝申しあげます。

また、大韓民国政府から、海洋水産部の鄭永勲（チョンヨンホン）水産政策室長様はじめ、房奇爀（パンギヒョク）韓国漁村漁港協会前会長、多くのご来賓のご臨席を賜り、誠に光栄に存じております。

日本と韓国の漁港協会は1988年の漁港大会から交流が始まり、以来強い友情で結ばれています。このような関係から生まれたこの技術交流会議ですが、今年で18回目となりました。論文発表や現地調査を通じ、有益かつ重要な情報交換が行われ、両協会の関係が益々向上していることをとてもうれしく思います。

両国は、世界有数の漁業国であり、消費者に提供される良質な水産物により、地域ごとに優れた食文化が発達しています。

しかしながら、出生率の低下や若年層の都市部への流出による地方の人口減少・高齢化が大きな問題となっています。

水産業が基幹産業であり観光的な価値も高い沿岸地域において、それらの問題を解決し、地域の活性化を図るには、両国の漁港、漁場、漁村の整備関係者が技術交流を深めることが有意義であると考えています。

今回のテーマを「漁港漁場漁村の6次産業化」としたことは、誠に時宜を得たものであり、これからの両国の水産業とこれを支える漁村の発展を図るため、有効な情報交換の場になるものと確信しております。

終わりに、この交流会議が益々発展するとともに、ここにお集まりの皆様のご活躍とご健勝をお祈りし、会議及び現地視察でお世話になる多くの皆様に重ねて感謝申し上げて、ご挨拶といたします。ありがとうございました。」と挨拶を行った。

その後、大韓民国海洋水産部鄭永勲水産政策室長により海洋水産部長官の祝辞が代読された。

会議は、安熙道（アンヒド）韓国海洋科学技術院名誉研究委員を座長として、両国それぞれ2名の代表者による各20分の主題発表が行われ、活発な質疑応答が行われた。

発表は次のとおり。

【主題発表】
①漁村観光活性化方案：京畿大学校観光大学教授　嚴瑞浩
②漁村の環境変化と6次産業化推進方向：韓国海洋水産開発院副研究委員　朴相宇
③漁業の6次産業化と漁村地域の活性化に向けた施策：水産庁漁港漁場整備部防災漁村課課長補佐　田村真弓
④事例を踏まえた漁村活性化方策：一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所第1調査研究部部長　西﨑孝之

活発な質疑応答が行われた

現地視察を実施

交流会議終了後、現地視察先である釜山市に向けて、高速鉄道のKTXで移動した。

KTXは、専用線路と在来線路を利用するとのことで、専用区間では時速300㎞で走行するが、在来線路部分は速度が落ち200㎞ほどである。ソウル～釜山まではおよそ2時間30分であった。

26日は、8時30分から視察がスタートし、国立水産科学院、大邊港の視察を行った。

国立水産科学院は、眼下に海を眺める高台にあり、非常にきれいな施設であった。

1989年の設置当時はひなびた地域であったとのことだが、近年はリゾート的な開発が進み、一等地になったとのことである。

主要な業務は、①水産資源の管理及び水産工学技術の開発、②水産増殖・養殖及びバイオテクノロジー技術の開発、③水産物の衛生安全及び利用に関する研究（疾病及び防疫）、④水産植物に関する品種管理（品種審査及び管理）、⑤水産技術の指導・普及支援となっている。

全国に10施設ある研究機関の中心であり、総人員は549人（うち本院237人）である。

院のビジョンには「重点推進課題」としての研究・開発を踏まえた「推進戦略」の研究を行い、それらをもとにして「国民の幸福な未来を開く水産科学技術の創造」を据えている。

見学した施設は、水流発生水槽と造波水槽で、主に船体の経済化（省エネ）に関する研究に使用しているとのことである。

その後、大邊港にある東海漁業管理団事務所に移動し、同管理団の業務と大邊港の概要説明を受けた。

東海漁業管理団は、漁業指導が主な業務であるが、今年1月から漁港建設業務が移管されたとのことである。

大邊港は、漁船の安全な停泊と漁獲物陸揚げの円滑化を図り、急増する観光客の受け入れ対処可能な、海洋観光・流通など複合的な機能を遂行する多機能漁港として開発、施工されている。

1971年に国家漁港の指定を受け、2006年に基本施工を完了し、2007年からは多機能開発に着手し今年竣工したところである。

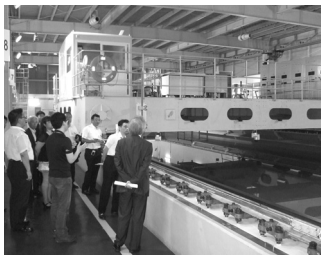
主要な漁獲物はカタクチイワシであり、水揚げはおよそ2万6千トン、金額で248億ウォンあまりである。

カタクチイワシのほとんどは、魚醤（キムチに用いる）に加工されているとのことであるが、港周辺の商店では、自宅で魚醤を作るための材料として、発酵したイワシや漬け込むためのポリバケツなどがセットで販売されていた。

視察後、金海空港へと移動し、帰国の途に着いた。

今回の交流会議では、24日夕刻に「歓迎晩餐会」が、25日には「夕食会」が催され、晩餐会には在韓日本国大使館の小椋康裕一等書記官と宮島栄一参事官が、夕食会には在釜山日本国総領事館の伊藤友紀副領事が参加した。

【第18回日韓漁港漁場漁村技術交流会議参加者】
（日本側）
橋本牧（公益社団法人全国漁港漁場協会会長）、田村真弓（水産庁漁港漁場整備部防災漁村課課長補佐）、宮島栄一（在大韓民国日本大使館参事官）、影山智将（一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所理事長）、西﨑孝之（同　第1調査研究部部長）、後藤卓治（同主任研究員）、荒川敏久（一般社団法人水産土木建設技術センター長崎支所長）、田中潤兒（㈱センク21顧問）、村瀬暢利（日建工学㈱課長）、佐治信雄（公益社団法人全国漁港漁場協会総務部長）、福田亮（同　業務課長）、金剛いづみ（同主幹）。


国立水産科学院の造波水槽

（韓国側主要参加者）
柳青魯（特殊法人韓國漁村漁港協會理事長）、鄭永勲（海洋水産部水産政策室長）、權畯榮（同漁港漁村課長）、房奇爀（特殊法人韓國漁村漁港協會前会長）、朴宰永（韓国水産会会長）、李相汶（韓国港湾協会会長）、李在完（㈱世光綜合技術団会長）、鄭大演（㈱大永エンジニアリング代表）、安熙道（韓国海洋科学技術院名誉研究委員）、高德鳳（特殊法人韓國漁村漁港協會前専務理事）、嚴瑞浩（京畿大学校観光大学教授）、朴相宇（韓国海洋水産開発院副研究委員）、魯炳煥（特殊法人韓國漁村漁港協會常任理事）

漁港友の会　第41回定期総会開催

総会の様子

漁港友の会（田中潤兒代表世話人）は、7月6日（月）千代田区のKKR HOTEL TOKYOにおいて来賓の高吉晋吾水産庁漁港漁場整備部長の出席を得て第41回定期総会を開催した。

会議は松永務世話人の司会進行で進められ、先ず、昨年の総会直前にしてなられた福地辰馬氏に対して哀悼の意を表して黙祷を捧げた。

続いて、田中代表世話人の挨拶、高吉部長の漁港漁場整備事業の概要等の説明を含めた来賓挨拶の後、新たに入会された宇賀神義宣氏、丹羽行氏、間辺本文氏、森田正博氏、鈴木正彦氏、藤原恒一郎氏、芳倉勝治氏の7氏の紹介、新規名誉会員となられた御代田敬一氏、成田国昭氏の2氏の紹介、米寿を迎えられた渡辺芳道氏、諏訪啓氏、村井昭郎氏、神田豊一氏の4氏・喜寿を迎えられた鈴木義久氏、川口毅氏の2氏の紹介が行われた。

その後、田中潤兒代表世話人の議長のもとに議事に入り、26年度収支決算、27年度収支予算案、世話人の変更（田中潤兒氏→橋本牧氏、松岡英二氏→丹羽行氏、青木道雄氏→染矢康弘氏）を原案どおり承認した。

総会終了後には、恒例の記念撮影を行なった後、松永世話人の司会で懇親会に移り、橋本牧新代表世話人の挨拶、水産庁防災漁村課中津達也課長の乾杯の発声の後、それぞれ旧交を暖めつつ和やかな懇談が続けられた。

懇親会には、水産庁計画課中泉昌光課長、整備課岡貞行課長も参加した。

なお、来年は7月4日（月）の6時から開催の予定。

漁港漁場漁村整備促進議員連盟が臨時総会

最近の水産基盤整備事業の取組状況を協議

挨拶する衛藤会長（右から２人目）

漁港漁場漁村整備促進議員連盟（会長・衛藤征士郎衆議院議員）は、７月８日（水）12時から自民党本部７０１号室で臨時総会を開催し、最近の水産基盤整備事業の取組状況について、高吉晋吾漁港漁場整備部長ら水産庁幹部及び関係団体を招いて協議を行った。

同議連事務局長の青木一彦参議院議員の司会で会議が進められ、最初に衛藤征士郎会長が、

「我が国の水産業、漁村は様々な課題を抱えているが「水産日本の復活」と「地方の創生」を推進するためにあらゆる施策を講じていかねばならない。特に水産基盤整備事業においては、消費・輸出の拡大に向けた高度衛生管理型漁港の整備、海域全体の生産力を底上げするための漁場整備及び地域の特性を活かして浜の活性化を図るための漁港ストックの有効活用の推進が喫緊の課題である。

本日は、水産庁及び現場の漁業関係者の方から説明をいただき、先ほどの課題に的確に対応するため本議連においてご議論いただきたい。また、来年度は漁港漁場整備長期計画の改定を控えており、施策実現のための予算の確保が重要な課題となるが、国の財政状況から大変厳しいものになることが予想される。本議連としては、我が国水産業を支える各地域がより一層活性化するよう今年度の補正予算の確保を含め、活動していく必要がある。」と挨拶。

地域活性化へ予算確保を

続いて、水産庁漁港漁場整備部の高吉部長が、先ず、平成27年度予算の考え方を説明し、拠点漁港の高度衛生管理対策について荷捌き所の整備状況等、水産資源回復対策として水産環境整備マスタープランの実施状況、国直轄漁場整備の実施状況、漁港施設の地震・津波対策の進捗状況と取組事例、漁港施設等の老朽化対策、東日本大震災からの漁港の復旧・復興状況について説明した。

次に、地域からの事例報告として、最初に、JFしまねの福本匡弥常務から島根県和江漁港の取組状況について、市場統合による流通機能再編と併せた高度衛生管理型の荷捌き所等の整備を実施した結果、整備前に比べ12％魚価が向上したこと等について報告があった。

次に、北海道の湧別漁業協同組合の森義文参事から、湧別漁港における高度衛生管理対策の効果事例として、ホタテ貝輸出促進のための漁港衛生管理対策を実施した結果、ホタテ貝の輸出量が整備前に比べ約5倍に伸張した旨の報告があった。

次に、兵庫県沼島漁業協同組合の蝉塚民男組合長から、兵庫県津波防災インフラ重点地区としての沼島漁港において多重防護の考え方に基づく防波堤と防潮堤を組み合わせた整備について報告があった。

以上の報告を踏まえた意見交換では、出席した議員から、「事業を実施した結果、どのような効果があったのかわかりやすい説明が必要」、「災害復旧は、原形復旧だけでなく実態に合った対応が必要」、「屋根つき岸壁等の衛生管理型漁港の要望が多くなっている」、「磯焼けによる水産資源の減少が著しい。自然の回復力を引き出す公共事業の実施が必要」、「水産基盤整備事業の予算は地方からの要望に応えるためにも補正予算の確保が必要」等の意見、要望が出された。

また、水産関係団体を代表し、本会の橋本牧会長が、議連の先生方への謝辞と水産基盤整備事業を巡る様々な課題の克服のために、なお一層のご支援について要請した。

また、全日本漁港建設協会の長野章会長から、議連の先生方への謝辞と漁港建設業の将来ビジョンの推進に向けての支援要請があった。

その後、竹下亘復興大臣から東日本大震災からの復旧・復興状況の説明があり、漁港漁村のために様々な施策を行ってきたが、漁村が隆々としておればよいが、もしかすると我々は間違っていたのかもしれない。元あったものを作り直すという発想を変え、いろいろと考えていく必要があるとのご挨拶があった。

最後に、衛藤会長が、「本日は、貴重かつ示唆に富んだ話しを聴けた。今後、しっかりと対応し、来年度の長期計画につなげていきたい。公共事業抑制の流れがあるが、公益に裨益する事業であるので堂々と胸を張って頑張っていただきたい。」と述べて締め括った。

本人出席の国会議員は、次の通り（敬称略）。

【衆議院議員】

衛藤征士郎、鈴木俊一、北村誠吾、金子恭之、木村太郎、竹下亘、あべ俊子、井林辰憲、伊東良孝、今村雅弘、岩田和親、金子万寿夫、神田憲次、岸信夫、北村茂男、國場幸之助、武部新、谷公一、津島淳、冨岡勉、中村裕之、西銘恒三郎、平口洋、堀井学、三ツ矢憲生、宮内秀樹

【参議院】

青木一彦、滝波宏文、堂故茂、長峯誠、舞立昇治、三宅伸吾、山下雄平、山田修路

代理出席は42名。

都道府県人事

～本所課長級以上～

（六月一日付及び五月三十一日）

【北海道】

水産林務部次長（総合政策部地域づくり支援局長）飛田康彦▽水産林務部水産局長（水産林務部水産局水産基盤整備担当局長）中田克哉▽水産林務部水産局水産基盤整備担当局長（水産林務部総務課企画調整担当課長）山口修司▽水産林務部水産局水産振興課長（水産林務部水産局漁業管理課指導取締担当課長）冨沢健伯▽檜山振興局長（水産林務部水産局長）幡宮輝雄▽水産林務部水産局水産経営課長（水産局水産振興課長）津坂透

退職（水産林務部次長）出町祐二

（公社）全国漁港漁場協会 人事異動

六月三十日付で（公社）全国漁港漁場協会参与の平澤博氏が退職し、後任に松岡英二氏が就任した。

松岡氏は六月四日に開催された第七十二回定時総会で理事に就任している。

開催案内

都市漁村交流推進協議会シンポジウム

トーク&トーク「町に元気を！」31日都内で

都市漁村交流推進協議会は、都市と漁村の交流に関心を持つ都道府県や、市町村等の関係者が集まり、情報交換や質の向上を行い、都市と漁村の交流を推進するための働きかけ等を行うことを目的として平成14年に設立された団体である。毎年、会員相互の交流と知識向上のため、総会後にシンポジウム（トーク&トーク「町に元気を！」）を開催している。今年度は、訪日外国人観光客の増加傾向を踏まえ、「漁村での訪日外国人客の受け入れ」をテーマとして、シンポジウムを開催するものである。

開催日：平成27年7月31日（金）午後1時半～

場所：エッサム神田ホール5F イベントホール2

講演

『訪日観光の状況と可能性』高井典子（文教大学国際学部国際観光学科准教授）

活動事例報告

『魅力ある漁業経営の推進と快適で活力あふれる漁村地域づくり』山峯明哲（富山市役所農林水産部農業水産課係長）

お問い合わせ・参加申し込み先

都市漁村交流推進協議会事務局（一財）漁港漁場漁村総合研究所

担当：林、後藤、浪川、川崎

TEL：03－5833－3220　FAX：03－5833－3221

第3回 定時総会開く

（一社）水産土木建設技術センター

（一社）水産土木建設技術センターは、6月18日午後、港区の三会堂ビル石垣記念ホールで定時総会を開催し、平成26年度決算、会費の額、役員報酬額及び本定時総会で任期満了となる全役員の選任を事務局提案どおり承認した。

また、26年度事業報告では、水産土木工事の施工管理技術等に関する調査研究事業としてストックマネジメントの手法・技術に関する調査、人工湧昇流漁場造成の施工管理技術の検討、沖の鳥島等厳しい環境に生息するサンゴの増殖技術開発、水産生物の生活史に対応した漁場環境形成推進調査、木材利用を促進する増殖技術開発調査等を実施したこと、水産土木技術者養成事業として水産工学技士認定登録事業等を実施したこと、更に東日本大震災からの復旧・復興事業については、水産庁や関係団体と連絡を密にして取組み、岩手県、宮城県及び福島県において専門技術者を現地に配置するなど、全面的な支援を行ったことなどが報告された。

27年度の事業計画では、水産多面的機能発揮対策の活動への技術的支援、ストックマネジメント事業の支援、サンゴ増殖技術の開発を行うとともに、漁港漁場整備工事については引き続き国や関係団体等と連絡を密にして支援を行うこと、また、地方公共団体の職員を対象にした水産土木工事監督・検査職員研修会の開催、技術情報資料等の刊行、地方の漁港漁場協会の研修会への講師派遣による普及事業等を行うとともに、「水産工学技士養成講習会」を開催することが報告された。

また、総会終了後、宇賀神義宣（うがじんよしのり）理事長以下の新たな執行体制が発表されるとともに、同じ会場で、長崎大学副学長の中田英昭水産学部教授による「今、わが国沿岸で何が起こっているのか～沿岸環境管理のこれからの課題～」と題しての講演が行われ、多数の聴衆が参加した。

第2回 定時総会開催

（一社）漁港漁場新技術研究会

総会の様子

漁港漁場新技術研究会は、第2回定時総会を6月30日午後4時00分からコープビルにおいて開催した。

総会では、橋本牧会長の開会挨拶に続き、高吉晋吾水産庁漁港漁場整備部長より来賓の挨拶があり、ゼニヤ海洋サービス㈱の伊藤学氏を議長に26年度決算等の審議がなされ、全て原案通り議決された。

また、故岡部憲一理事に代わって新理事として五洋建設㈱の近藤浩右氏が選任され、併せて開催された平成27年度第2回理事会で副会長に選任された。

橋本会長は、「2年目である今年は正念場。漁港漁場整備長期計画の改定準備の年でもある。新たな技術を事業の中で具体化していくために的確な提案をしていきたい。漁港漁場協会、漁村総研、水産土木センターとは、相互に賛助会員となっており、新たな技術を広めていくために連携が必要と考えている。」と述べた。

総会終了後、4時50分から、岡貞行水産庁漁港漁場整備部整備課長による「漁港漁場整備における最近の話題」と題した特別講演が行われた。5時半からは漁村水環境研究会との共催による懇親会が開催された。漁港漁場関係団体、報道関係者等からも大勢の参加があり大いに盛り上がり、楽しい有意義な懇親会となった。

漁港往来

自6月1日 至6月30日

6月3日（水）

北海道水産林務部水産局長中田克哉氏、同部水産基盤整備担当局長山口修司氏

全国漁港漁場協会福田業務課長は福岡県へ出張

6月11日（木）

全国漁港漁場協会橋本会長は島根県へ出張

6月17日（水）

青森県東青地方漁港漁場整備事務所長鹿内武久氏、青森県下北地方漁港漁場整備事務所長熊沢正樹氏、青森県西北地方漁港漁場整備事務所長三上賢司氏

岩手県漁港漁村協会副会長理事（岩手県漁連代表理事会長）大井誠治氏、岩手県農林水産部漁港漁村課漁港課長阿部幸樹氏、岩手県漁港漁村協会専務理事大村益男氏

島根県漁港漁場協会会長（隠岐の島町長）松田和久氏、同協会事務局長山下博徳氏、

全国漁港漁場協会橋本会長は長崎県へ出張

6月24日（水）

全国漁港漁場協会橋本会長、佐治総務部長、福田業務課長、金刺主幹は韓国へ出張